

様式（第9条関係）

審 議 結 果

次の審議会等を下記のとおり開催した。

審議会等の名称	第1回益田市中山間地域振興基本計画策定委員会
開催日時	2024年7月8日（月） 10：00～12：00
開催場所	益田市役所 第1会議室
出席者	<p>[策定委員]</p> <p>島根大学教育学部 作野広和教授 美作大学生活科学部 田中涼准教授 島根県立大学地域政策学部 須原菜摘専任講師 二条里づくりの会 佐藤伸廣会長 道川地域づくりの会 高田純子地域マネージャー とよかわの未来をつくる会 山本宏史会長 NPO 法人アンダンテ 21 廣兼義明理事 益田市連合自治会長会 澤江佑三会長 一般社団法人 豊かな暮らしラボラトリー 檜垣賢一代表理事 美濃商工会 廣兼重孝委員</p> <p>[事務局]</p> <p>政策企画局 石川秀文局長 連携のまちづくり推進課 田原栄里子課長 齋藤久美子課長補佐 吾郷和宏係長 石川直主任主事 山崎志津乃主任主事</p> <p>[委託事業者]</p> <p>株式会社バイタルリード 総合計画部 宮下和也部長 垣内雄一朗主任 内田有香</p>
議題	<p>益田市中山間地域振興基本計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現況整理 ・ 論点整理 ・ 意見交換
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	1人

審議経過	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ○会議資料 1～5、別冊、委嘱書についての説明。 ○傍聴希望者についての説明と委員からの承諾。 ○新任委員の紹介（田中准教授、須原専任講師） <p>2. 事務局局長挨拶</p> <p>3. 議題</p> <p>(1) 益田市中心間地域振興基本計画策定委員会の設置（資料 1・1-1）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長、副委員長選出 ・作野委員長、須原副委員長、委員挨拶 <p>(2) 審議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ①益田市中心間地域振興基本計画の策定について ○益田市附属機関設置条例の一部改正条例と委員会の運営規則について事務局より説明（資料 1・1-1） ○益田市中心間地域振興基本計画の策定と益田市中心間地域振興基本条例について事務局より説明（資料 2・2-1）
委員	市の制度について、計画と条例の違いは何なのか。 前回の益田市中心間地域将来ビジョン会議では公民館と自治組織の違いの整理も議題として出ていた。
事務局	条例は憲法や法律に示されており、市としての決まりごとを定めたものである。計画は条例に従って、具体的な施策を定め実施していくものである。総合振興計画は計画の最上位に位置するものであるが、今回の益田市中心間地域振興基本計画は個別計画に該当する。
委員長	法の中に憲法、法律、政令、条例がある。その条例に基づいて計画があるが、総合振興計画は地方自治法で制定が定められている。
事務局	総合振興計画は地方自治法で策定が義務化されていたが、改正が行われて義務ではなくなった。しかし各地方自治体が方針を定めるための計画として総合振興計画を位置づけ、策定している状況である。
委員長	公民館については社会教育法で定められている。益田市には公民館の設置管理条例があるのか。
事務局	益田市にも公民館の設置管理条例がある。資料 5-1 にも記載している。
委員	今回策定するのは、条例の下にある総合振興計画のさらに下位に位置する地域振興計画なのか。
委員長	その通りである。前回策定した将来ビジョンについては

	極めて任意のものである。今回の計画は法律や条例に基づいたものとなっている。
委員	今回の計画は連携のまちづくり推進課の行動指針を定めるものなのか、他の課も連携して行うものなのか。
事務局	計画においては具体的な施策を入れて進捗を示すところまでには至らないだろうと考えている。 また、中山間地域の課題は、関係する部署が多様であるため、庁内 12 課の課長及び部長級と課題について議論を行っている。連携のまちづくり推進課だけの計画ではない。
審議経過	<p>②「益田市中山間地域振興将来ビジョン」について</p> <p>○益田市中山間地域将来ビジョンについて作野委員長より補足説明（別冊）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来ビジョンについて、本来報告書等を作成する計画ではなかったが、方向転換を行い報告書にまとめた。 ・ 将来ビジョンは委員の自由な意見を反映できた。 ・ 今回の計画は、市の計画であるため、内容については庁内で事前承認を頂く必要がある。 ・ 将来ビジョンの活用方法については議論を行っていききたい。 <p>③データから見る市の現状について</p> <p>○島根県中山間地域実態調査の概要について、株式会社バイタルリードより説明（資料 3・4）</p> <p>④将来ビジョンを基本とした中山間地域振興基本計画策定にあたっての考え方の整理</p> <p>○計画策定の論点整理について事務局より説明（資料 5・5-1）</p> <p>(3) 意見交換</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市外部の立場からすると、益田市はひとつづくりの面で尽力されている印象がある。しかし、若年層の定住がなかなか進まないという問題がある。 ・ そこに住み続けることを考えた場合、職場や働き口などがないと定住は困難である。 ・ そこで益田市ならではのアドバンテージである萩・石見空港を活用した 2 拠点居住を促す施策があってもいいと思う。1 日 2 便東京（羽田）～益田の往復便がある点を活かして、飛行機を低価格で利用でき、定住より、2 拠点を行き来するという新しい生活スタイルを提案するような施策があってもいいのではないか。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が 20 地区それぞれに地域自治組織の活動を独自で取り組むことを認めてしまった。 ・ 地域自治組織に関して、20 地区が 20 通りの活動をしており、それを標準化したいと言われても、地区ごとでできることと、できないことがはっきりしている。 ・ 将来ビジョンの 3 章に記載があるように、本来向かうべき地域自治組織というものがもともとあったのか疑問に感じる。 ・ 最も懸念しているのは、活動に取り組むメンバーの年齢層が上がってきている状況の中、担い手の確保ができないことである。 ・ 集落統合・集落移転、機能再編ということに対して、行政が手を出せるのか。自分は、それはやってはいけないことだと考えている。 ・ 集落の機能が無くなっていくことに対して、行政は可能な限り補助をするが、最終的に集落の存続の判断は住民が決めることである。最後まで地域で暮らせるような支援を最大限考えていくべきだ。 ・ 地域を持続させるための最低限の人口維持はできないのではないか。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集落移転についても考えていかないといけない。 ・ 集落の無住化については、将来ビジョンにおいて「むらおさめ」という考え方で頭出しをしている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員が言われたように 20 地区はそれぞれに活動を行っている。 ・ 7 月 1 日に道川地域づくりの会は一般社団法人になった。これから先の不安も多い中、地域で守るべきものは何なのかという話をした結果、鳥獣害対策も含め、農山村の多面的機能を最終的に守っていくべきであるという結論に至った。道川地域づくりの会では、地域で力を合わせ農山村の多面的機能を守っていくことを目標としているため、他の地域自治組織と役割が違っている。 ・ その観点からも地域自治組織を一つの形にまとめていくことについて疑問に思う。 ・ クマの捕獲に際し、県の職員からクマが出没する地域に住んでいることを否定されるかのような発言があり、地域住民が怒っている。 ・ 地域で暮らしている住民の気持ちをしっかりと支えて寄り添っていけるような政策を考えていけたら良い。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 20 地区それぞれの形で活動しているので、中山間地域振興基本計画の中で一律の形を示すことに対し疑問に思う。 ・ 人手が不足している地域は多いが、人手不足という言葉に甘えて、活動を続けるための工夫をせず、流されてしまっているのではないか。 ・ 久々に地域で懇親会を行ったところ、思いのほか若い方が参加して会を盛り上げてくれた。30～50代の方が積極的に活動してくれた。 ・ 何かの動きを出せば、人手不足も解消されるのではないか。人手不足という言葉に流されず、皆で動くことの提案をしていくべきなのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPO 法人の活動で、高津川、益田川流域の小学生に対し、川で生き物を探すといた授業を任されている。小学生が学校では見せない顔が見られ、学校外や地域での活動が少なくなっていることを実感している。地域の方が小学生に声をかけている様子を見て、地域の方自身が住んでいる地域に対して愛着を持っているように感じる。 ・ 田舎に住むことの自由さがあるので、不便だから地域を出た方が良いというアドバイスをするのではなく、先祖代々引き継いだ土地を守ろうとしている、そういう視点は取り除いてはいけないと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 年前のビジョン会議で委員が「道川地区の人口がついに 100 人を切った」と話されていた。地域ビジョンもあるけれど、そのビジョンを作っている間に人口が 100 人切ったという状況の中で作るこの計画は地域にとって重要なものである。 ・ 市単位で見れば人口が減っていても危機感はないが、地区単位で見るとその減少幅は顕著に表れる。委員の皆さんにはこの議論をご理解いただけたらと思う。また、事務局の田原課長や作野先生も中山間地域をどうにかしたいと思っておられる。 ・ この会議は、条例ができたから計画を作るのではなく、計画として実行することを一つでも多く明確にする会議でないといけないと思う。 ・ 委員は 1 人 1 人知見の蓄えられたメンバーがそろっているなので、この会議を攻めの活動にしていきたい。担当課の本気も感じるなので、会議の進め方を再検討する必要があるのではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 結局、課題は多すぎるし、この計画が総合振興計画になってしまう気がしている。そうではなくて、メスを入れるところ、スポットを当てるところ、具体的に何をするのか等を明確にしたい。 ・ 会議のコーディネーターは誰がするのか。 ・ バイタルリードへどこまで委託しているのか、どのような力を借りられるのか知りたい。 ・ 部会のように、有志メンバーで計画策定に資する取り組みを積極的に行っていければとも思う。各地区このまま1年後には衰退していることが目に見えて分かるので、実施することをはっきり示した計画にしていきたい。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ コーディネーターについては、私が地域振興アドバイザーという立場から会議をコーディネートする役割を担っている。 ・ 自分の主導になってしまったことは反省している。ボトムアップの力を強くした議論の進め方が良いと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分は連合自治会会長という立場で来ているが、他にも、地域づくり活動の会長や、健康づくりの会長も担っており、その上で今市長に要望していることが3点ある。 ・ 山陰道が繋がることでどれだけ地域に影響があるのか非常に未知数な部分が多い。 ・ 地域の方は様々な面で山陰道の開通に期待を寄せているが、山陰道へアクセスする道路にどう影響が出るのかが非常に問題である。 ・ 交通量が増えたり、住民にとっては迷惑になる面もあるため、山陰道の完成に付随して、地域の県道・市道の整備を強く要望している。 ・ 鳥獣害被害対策について、中山間地域の大きな問題としてクローズアップされているが、現状対策が追い付かず、手に負えない状況となっている。 ・ 若者が地域で働きやすい環境の整備を政策として打ち出してほしい。また雇用を受け入れる企業を多く呼び入れないと、若者が益田に来ないし、益田からも出ていく。この状況を止めるための対策が必要である。 ・ 都会からUターン、Iターンで帰ってくる人への手当は厚い。しかし、地元にいる者に対する手当は少ないように感じる。「やはり益田が良いな」と思うメリット

	<p>や、若者を惹きつけるような要素を引き出す施策を打ち出していくべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が住んでいる東部ブロックには東陽中学校がある。その校区にある公民館主事の方々が毎月のように集まり、活動について話し合っており、非常に連携が取れている。 ・ 学生を含めた活動をしており、特に部活動単位で地域のごみステーションや駅舎を綺麗にする、お年寄りにデリバリーをすとか、そういうこともやろうとしている（実際にやっている）。 ・ 地域での活動を進めていく中で、学校を取り込んでいく必要があると思う。若者が地域に興味関心を持たない益田になってしまうのではないかと感じている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほど委員が言われた、3、40代が意外というじゃないかという話で、今は関わりが無くても、きっかけがあれば活動に関わってくれる人が、結構いるのではないかと思う。 ・ 昨年、商工会青年部の部員増加率で益田市が県内1位になったが、そうやって少しずつ声をかけていけば、少しずつでも人が集まる。起業される方や、親から引き継いだ事業を継続される方もおられるので、定住に繋がると思うし、どんどん声をかけていくべきだと思う。 ・ 「もてつも」というグループの会長を担っているが、都茂地区は30代が頑張っていて活動している。しかし、20代が少ない。20代をどうやって取り込んでいくかが、「もてつも」の課題となっている。 ・ 自動車整備工場とガソリンスタンドの経営をしており、地元の高校卒業者を2年連続で採用した。企業も努力をして、地元の新規採用に力を入れている。 ・ 都茂小学校のPTA会長として、美都中学校の再編に関するアンケート調査を行い、そのアンケート調査の結果を教育委員会に答申した。保育園、小学校、中学校を確保することは、定住には必要不可欠である。 ・ 益田市での横のつながりを活かし、うまく進めていけたら良いと思う。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料5の「3 将来ビジョンを基本とした中山間地域振興基本計画策定にあたっての論点整理」の「P8 特に重要な課題（自治会・自治組織・公民館）」の説明の中で、住民に地域運営組織の役割について理解してもらう必

	<p>要性の説明をされたが、この計画はそういうことをやるものではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議の前半で、組織の関係性やどういう関係があるべき姿かという議論があったが、そのことについて考えていくべきである。 ・ 地域運営組織について「住民の認識が不足しているので、もっと理解してください」というような姿勢ではいけない。 ・ 委員が言われたように住民主体で変えるべきことは変えていかないといけない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先ほど委員が言われた、思い込みの打破、視点を変えることの大切さも改めて思った。 ・ 今回は第1回会議であり、基本的な説明や報告事項に割く時間が多かったが、委員の同士の議論、意見交換の時間を多く確保するべきであった。 ・ 資料5の説明については、住民の理解が不足しているわけではなく、行政側の働きかけが不足していたという反省を踏まえての内容である。 ・ 地域自治組織の定義や役割はあるものの、現場では実態が異なっていたり、自治会、地域自治組織、公民館の関係性が理想的なものになっていない。
委員長	<p>総括</p> <p>①中山間地域振興基本計画を誰がどのように決めていくのかが重要な論点となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どれだけ住民と委員の思いを伝えていけるのかが重要である。 <p>②議論の内容が非常に多岐にわたっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広範囲の話題から、個別具体の話題と分れていたため、その系統ごとに現状と課題、あるべき姿を整理していくべきである。 ・ 他の計画との整合性や、上位計画の在り方を問うことも必要。 <p>③総合振興計画と中山間地域振基本計画の違いについて、中山間地域振興基本計画が何を指すべきか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合振興計画では言い切れていない問題点に切り込んでいくことがポイントである。 ・ 集落移転、集落統合といった観点が妥当かどうかは別として、思い切った方向転換が必要であるならば出していく、そういった切り込み方も必要である。 ・ 「むらおさめ」など行政発では言えそうにないことを、

	この会議で検討していくことに価値を感じている。
審議経過	4. 閉会
問合せ先	政策企画局連携のまちづくり推進課 電話 0856-31-0600